

## 活力を創出する研究・研修を紹介します

### 林業用コンテナ苗の育苗期間短縮への挑戦！

本県では、低コストでスギ、ヒノキの植栽を行うための取組として、乾燥に強く、時期を選ばず植栽が可能な林業用コンテナ苗の利用拡大を進めており、センターではコンテナ苗の生産経費を抑えるために、育苗期間を短縮する研究を行っています。

その結果、本県の温暖な気候下では、春播きで1苗当たり2.6g (NPK=10-18-15) 程度を施肥すると1年で良苗が育成できることが分かりました。また、通常の春ではなく、秋に播種することで、得苗率 (出荷可能な健全な苗の割合) が 83% (通常の約1.4倍) に向上したことから、秋播きも効果的であることが分かりました。

今後も様々な効果を検証し、従前の2年かかる育苗期間を半年から1年短縮できるよう技術の開発を進めていきます。  
(林業技術部 林業研究室)

#### ●コンテナ苗とは？

マルチキャビティコンテナで育苗した根鉢付き苗のこと。

伐採後、すぐに再造林ができる。  
= 施業の低コスト化、収益性の向上につながる。



苗を1本ずつ  
植えて育てます。



①30cm上

②3.5mm上

#### ●山口県の出荷規格

- ①苗 長：30cm上
- ②根 元 径：3.5mm上
- ③根の成形性：根が培地に張り巡され、根鉢が容易に崩れない状態が保たれており、根が垂直方向に発達し、根巻きしていないもの。



#### <主な内容>

- ・ 林業用コンテナ苗の育苗期間短縮への挑戦！

林業技術部 林業研究室

#### ◇各部の取り組み

- ・ 「こじゃんと1号・2号」でシカを捕獲しませんか？
- ・ 低コスト果実袋で「せとみ」の果皮障害を軽減！
- ・ 牛の体外受精卵生産の野外試験を実施します！
- ・ 莢がはじけにくい！大豆新品種「サチユタカA1号」を奨励品種に採用
- ・ 山口県立農業大学の令和5年度入学生を募集します！
- ・ ネットを使えばユリの球根収穫作業は楽になります！

本 部 経営高度化研究室  
 農業技術部 柑きつ振興センター  
 畜産技術部 家畜改良研究室  
 農業技術部 土地利用作物研究室

農業担い手支援部 教務課 (農業大学校)  
 農業技術部 花き振興センター

## 「こじゃんと1号・2号」でシカを捕獲しませんか？

センターでは、シカを効率よく捕獲するため、**重量が軽く移動が簡単な**ニホンジカ捕獲用小型囲いワナ「こじゃんと1号・2号」（四国森林管理局開発）を導入して、県内での捕獲性能の検証を行いました。ワナの規格などは下表のとおりです。

捕獲成果は、11～2月の4か月間で、10基のワナで**44頭のシカを捕獲しました**。囲いワナは、餌付けで誘引して捕獲する装置ですが、シカを捕獲する場合は、シカの嗜好性が高い餌としてヘイキューブ（成形乾草）がお勧めです。また、ワナの設置場所は、森林内よりも、開（ひら）けた場所の草を刈り取って、広場を作って設置するとシカが集まりやすく捕獲量も多くなります。



誘引されたシカの群れ



こじゃんと2号で捕獲

区 分	横幅×高さ×奥行	重量	価格
こじゃんと1号	80cm×130cm×180cm	58kg	6万円台
こじゃんと2号	110cm×160cm×220cm	102kg	7万円台
注意事項：高知県からの運搬経費が別に掛かります。			

このワナは、どちらも捕獲しやすいワナであることを確認しましたが、山口県のシカは四国より大きく、1号では上部から逃げるので、箱わなに改良する必要があります。シカの捕獲をお考えの方は、ご利用を検討されてはいかがでしょうか。  
〔本部 経営高度化研究室〕

## 低コスト果実袋で「せとみ」の果皮障害を軽減！

県オリジナルかんきつ「せとみ」の一定の品質基準を満たしたものが、「ゆめほっぺ」というブランドで販売されています。「せとみ（ゆめほっぺ）」は、かんきつの中でも高単価を維持していますが、外観のよい果実に仕上げるためや、収穫前の低温、鳥害から果実を守るため、果実一つひとつに袋をかけています。

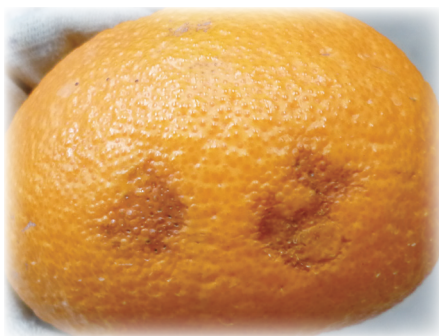
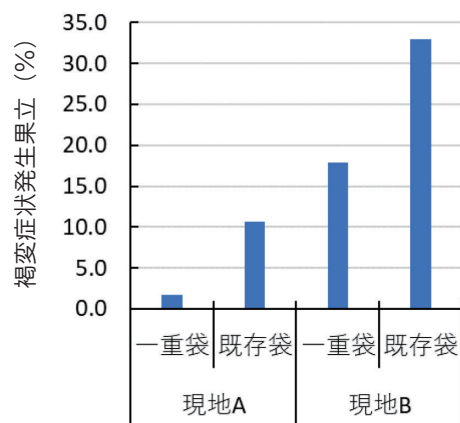


写真1 果皮障害（褐変症状）



写真2 新果実袋（紙製一重袋）



果実袋の違いが果皮障害（褐変症状）の発生に及ぼす影響（2019年）  
被覆：11月上旬、収穫：1月下旬

しかし、気象変動の影響で、近年、秋冬季は高温多雨となりやすく、袋内で果皮障害（写真1）が発生し、商品性を著しく低下させることから、**果皮障害の軽減に有効な果実袋を選定・改良しました**（図）。

この果実袋は、白色の紙製一重袋（写真2）で、既存の二重袋に比べて果実にかけやすく、**作業時間は2割程度短縮**できます。

また、**価格も安く**、資材コストが削減できることから、**令和5年産からの導入**を予定しています。

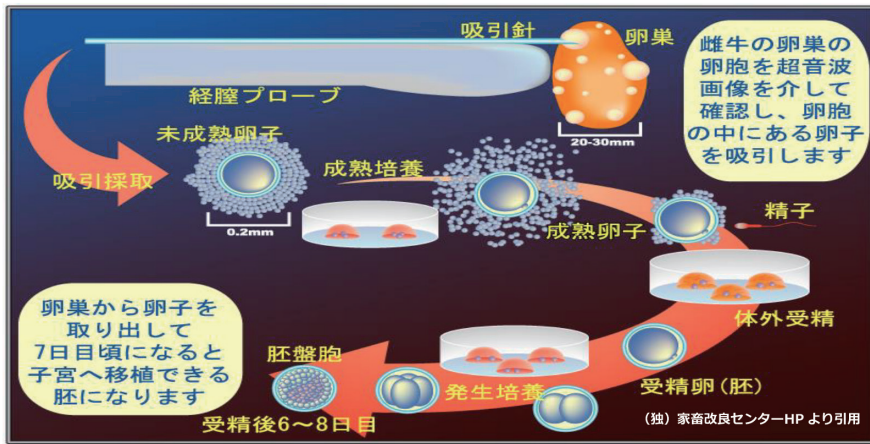
〔農業技術部 柑きつ振興センター〕



# 牛の体外受精卵生産の野外試験を実施します！

畜産技術部では、優秀な能力を持ちながらも、子宮等に障害があるため、体内受精卵の生産に供与出来ない黒毛和種繁殖雌牛への対策に取り組んでいます。

具体的には、超音波画像により牛の卵巣を確認しながら針を刺入して卵子を採取（OPU）し、牛の体外で精子と受精（IVF）させ、体外受精卵を生産するOPU-IVF技術の研究をしており、この度、野外事例の実証試験を開始しました。



体外受精卵で生産した子牛

もし、優秀な能力を持ちながら、繁殖や体内受精卵生産に供与できない牛がいましたら、OPU-IVF技術の活用を検討してください。詳細は、畜産技術部 家畜改良研究室あるいは、各農林（水産）事務所畜産部にお問い合わせください。  
〔畜産技術部 家畜改良研究室〕

# さや 莢がはじけにくい！大豆新品種「サチユタカA1号」を奨励品種に採用

長らく県内で栽培されてきた大豆「サチユタカ」は、機械で収穫するときに莢がはじけて収穫量が減ってしまうという欠点がありました。

そこで、土地利用作物研究室では「サチユタカ」と同じくらい収量・品質が優れており、なおかつ、成熟期になっても莢がはじけにくい特性（難裂莢性）を持つ「サチユタカA1号(エーイチゴウ)」に注目しました。

県内で試験栽培を行った結果、「サチユタカA1号」の収量・品質は「サチユタカ」とほぼ同じであり、収穫するときに莢がはじけにくいため、収穫量が減らないことが確かめられました。

このことから、令和3年11月に「サチユタカA1号」を新たな奨励品種として採用しました。

現在、県内で種子生産が行われており、令和5年度から「サチユタカ」に代わって一斉に栽培される予定です。

〔農業技術部 土地利用作物研究室〕



センター内で栽培した「サチユタカA1号」



「サチユタカ」（左）は莢がはじけているが、「サチユタカA1号」（右）ははじけていない。（成熟期9日後）

※「サチユタカA1号」は農研機構次世代作物開発研究センター（当時）において育成されました。平成26年度に品種登録され、兵庫県と奈良県で奨励品種に採用されています。

# 山口県立農業大学の令和5年度入学生を募集します！

防府市の大平山のふもとに広がる緑のキャンパス「山口県立農業大学校」は、全寮制のもとで実践学修を中心として、山口県の農業の担い手を育成する2年制の専修学校で、**卒業生の6割以上が就農**し、近年は農業法人への就業者が増えています。

現在、「園芸学科（野菜経営コース・花き経営コース・果樹経営コース）」と「畜産学科（酪農経営コース・肉用牛経営コース）」の2学科5コースがあり、1年生25名、2年生33名が在籍し、みなさん夢に向かって奮闘中です。

令和5年度は、水田複合経営に必要な知識・技術を学ぶ、「**土地利用学科**」を新設するなど学科・カリキュラムを再編し、下記のとおり入学生を募集します。

## ◆入学試験日程等

区分	願書受付期間	願書締切日	入学試験日	合格発表日
一次募集	10月20日 ～ 11月4日	11月4日	11月24日	12月1日
二次募集 ※	1月5日 ～ 1月20日	1月20日	2月8日	2月15日

※合格状況により二次募集を行わないことがあります。

## ◆募集学科及び定員

学 科	専 攻	定 員
土地利用学科 【新設】	—	10人
園芸学科	野菜経営コース 花き経営コース 果樹経営コース	20人
畜産学科	酪農経営コース 肉用牛経営コース	10人

【問合せ先】山口県立農業大学校 教務課 TEL0835-38-0510

◇詳しくは農業大学校ホームページをご覧ください。 <https://www.yamaguchi-noudai.jp>

★なお、山口県立農業大学校では、各種社会人研修（やまぐち就農支援塾）も実施しています。  
「就農・技術支援室」TEL0835-27-2714（直通）へお問い合わせください。



# ネットを使えばユリの球根収穫作業は楽になります！

花き振興センターでは、山口県が育成したオリジナルユリの球根の増殖と安定供給のため、2枚のネットに球根を挟んで栽培し、収穫時にはネットとともに球根を土から引き上げる省力栽培技術の開発に取り組みました。



ネットの設置（定植時）



ネット栽培収穫時の様子

**収穫作業時間は**10aあたり約50時間となり、慣行法に比べて**50%削減**できます。

ネットを設置するため、定植作業は慣行法より労力がかかるものの、**定植と収穫の合計作業時間は**10aあたり約82時間と慣行法に比べて**30%程度削減**できます。

この技術は、令和2年より下関市などオリジナルユリの球根増殖産地で本格的な導入が始まっており、「収穫作業が楽になった」と好評です。  
〔農業技術部 花き振興センター〕

## <山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0231 山口市大内氷上1-1-1 TEL (083) 927-7011 FAX (083) 927-0214  
URL <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/>